

第4回 福井鉄道福武線活性化連携協議会 議事録

日 時 平成20年11月11日(木) 午後1時～午後2時30分
場 所 ユアーズホテルフクイ5F ルミエール
出席者 別紙のとおり
資 料 別紙1、2のとおり

1. 会長挨拶

○会 長 福井鉄道福武線活性化連携協議会の開催にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

委員各位におかれましては、大変お忙しい中、この協議会に御出席をいただきましてありがとうございます。また、日ごろより福武線の再生、そして活性化に格別の御支援、御協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

福井鉄道福武線につきましては、本日御出席いただいております新社長予定者が9月に顧問に就任されまして、11月5日に開かれました福井鉄道福武線協議会では今後の経営計画の柱となる基本理念を発表され、再生に向けたスタートが切られたと感じております。

さて、本協議会には、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に示されました国の地方公共交通支援の枠組みを活用いたしまして、沿線3市が中心となり、県を初め沿線地域の方々と連携、協力をして、福武線の活性化・再生に取り組んでいこうというものであります。8月には、サポート団体の皆様の大変な御尽力によりまして沿線住民のアンケートも行われ、沿線の皆様の大変貴重な意見をまとめていただくことができました。

本日は、そのアンケートなどで得られました市民の皆様の御意見をもとに作成いたしました福井鉄道福武線の連携計画の骨子案を御審議いただく運びとなりました。いろいろ御意見をちょうだいいたしながら骨子案を固めてまいりたいと存じますので、本日はよろしく御願申し上げます。

簡単でございますけれども、開会に際しての御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく御願いたします。

2. 議題

(1) 福井鉄道福武線地域公共交通総合連携計画(骨子案)について

資料に基づき事務局より説明があり、主な質疑応答は以下のとおりである。

○座 長 大分広い範囲にわたりますので、今すべてを紹介するのは難しいかもしれませんが、まず、総合連携計画を立てていく上で、福井鉄道がどういう現状にあって、どういう課題があるか。課題としては、アンケート分析とサポート団体の提案をもとにして整理しているわけですが、ここで共通した認識を持っていくということが連携計画を立てていく上で重要と思いますので、まず、60ページまでのところで御質問あるいは御意見等あれば伺いたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○委 員 福井市のサポート団体協議会ですが、46ページのパーク・アンド・ライドで、既に浅水駅パーク・アンド・ライド駐車場ができておりまして、45台ということでございますけれども、浅水駅につきましてはこれが有料でございます。今後の整備予定の駐車場につきましては、すべて無料というようなことで計画されているわけですが、何とかこの浅水駅の現在の有料の部分を無料にお願いできないか。今回の議論とは違うかもしれませんが、パーク・アンド・ライド整備計画の中ではやっぱり、有料というのは住民の理解が非常に難しい。今既に、なぜこだけ有料

なのかと。たくさんあるわけじゃございません。水落だけかもしれないけれども、今後整備されてくるすべてが無料で浅水だけが有料だということになると、住民としては、なぜかなというふうな疑問も出ると思いますので、この辺につきましては、できれば行政なり事業者の方で無料にさせていただくことができれば大変ありがたいなと思うわけでございます。その他、福井市といたしましては、今回要望させていただきました内容的にはほぼ満たされているのではないかと考えております。ひとつよろしく願いいたします。

○委員 浅水駅の駐車場につきましては、県営の駐車場として整備させていただいたわけですが、あの周辺の駐車場は全部有料になっておりますので、そのバランス上、有料というふうにさせていただいております。

○委員 無料に向けた努力をしていただきたいと思います。周辺にはそんなにたくさんの有料駐車場があるとは思いませんが。

○委員 県でも何回か調べていますが、この地域には民営の駐車場を圧迫しないということがございますので、我々、道路管理者として整備する以上は、そういう観点も非常に重要な面もあるかなと考えております。

○事務局 事務局からそれについてアイデアとか、やり方があるということを少し御提案したいと思います。確かに、県土木部が言われておるように、民間駐車場がある場合にはなかなか無料化というのは難しいと思いますが、利用者を特定するという形があると思うんですね。例えば回数券を持っているとか、確実に電車に乗る、それについて何か優遇措置があるというような仕組みをつくれば、違う人が寄ってこないということもあるのではないかと思います。定期券を持っている人に限るとか、いろいろなやり方があるのではないかと思います。そのような形で選別ができるのではないかと思います。そういったしておりますので、そこら辺を少しまた駐車場を管理している方と調整を図っていければよいのではと考えております。

○座長 駐車場法でしたか、法的な関係があっても多分できないと思うんですけども、その辺はいろいろ工夫をして、こういう要望も実際に出ているわけですから、何らかの対応ができるのであれば、そういうふうな対応を考えていただきたいと思います。

○委員 今回ハーモニーホールのパーク・アンド・ライドを年末から試行でやっていただきます。この場合、乗客が増えていないという実態ですが、その理由というのは、通勤通学の定期と回数券のある人という条件がついてくると思います。これをできるだけ弾力的に、そういうものじゃなしに、一回限りでも、街へ買い物に行くためにここを使いたいといったときに、それを使わせる。そういうふうな弾力的なものをやりたいというのもここではあるわけです。いろいろ問題はあると思いますが、その辺、これだけ整備されて、全部無料で、浅水だけは有料というのは難しいと思います。

○座長 パーク・アンド・ライドの駐車場の利用の推進ということもいろいろ考えていかないと、具体的に今後検討していく必要があると思います。ちょっと細かい点で申しわけありませんが、41 ページの新駅の設置のところで気になるのは、書かれている順番ありますよね。これ、必ずしも北から順番に、あるいは南から順番に並んでいるわけじゃないので、整備する順番に書かれているのかという、ちょっと変な誤解を与えてしまうといけなような気がするのですが、この辺は何か根拠がありますか。

○事務局 新駅の設置につきましては、基本的には鉄道事業者が行いますので、設置順位の決定につきましては鉄道事業者にあるということですが、今回、優先順位につきまして、基本的に再構築部会、ワーキングの中で基本的な優先順位を想定しています。

○座長 その順番ということでしょうか。

○事務局 その優先度の、期待順に並んでおります。

- 座 長 次に、計画の方ですが、61、62、63 ページ、これは地域公共交通総合連携計画の部分になるわけですが、計画の基本方針、計画の目標、この辺で御意見あるいは御質問があれば出していただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。
- 委 員 63 ページの計画の目標のところですが、年間 200 万人以上という表記になっていますが、1 枚配っていただきました骨子の方では 200 万人ということで言い切りのような形になっているわけですが、この辺は大体、200 万人以上というふうな、ちょっと幅のあるようなとらえ方でよろしいのでしょうか。
- 事務局 これは 200 万人以上というふうなとらえ方でよろしいかと思えます。
- 座 長 4 の目標を達成するために行う事業、この辺の出し方として、基本的にどのような出され方をするのか、簡単に御説明をお願いしたいと思うんですけれども。
- 事務局 この部分につきましては、2 番目の議題と重なるところがございますけれども、実は、鉄道事業再構築事業というのは、法律が施行されたのが今年の 10 月 1 日でございます。県の方に国からこれに関する通達がございましたのが 10 月 28 日でございます。この作成要領のようなものは我々も最近入手したものでございまして、それに従って今後書いていくということでございます。今回、この法に基づいて鉄道事業再構築事業の認定というのが、福井鉄道が初めてのケースになっていくということでございまして、しかも、自治体が鉄道用地を取得して、重要な資産の譲渡という形で行うのは全くの初めてのケースであり、その上、福井鉄道という会社そのものが残って、会社の形態をそのままにして事業構造を変更するという、極めてまれなケースという認識を国は持っております、我々としては、福井鉄道を再生・活性化させていくという強い意思は持っておりますけれども、国としては本当に活性化していいか、見えにくいというような部分がございます。それで、国も極めて慎重に対応しているところでございます。そこでこの部分につきましては、例えば福井鉄道のこれからの経営計画で、例えば 160 万人が 200 万人に増えることに対する定量的な検証が必要で、どういう施策を打つと何万人増客するか、例えばパーク・アンド・ライドを設置することによって何万人増えるか、新駅を設置することで何万人増えるか、それから運賃を下げることによって何万人増えるか、というような、定量的な検証をこの部分で求められています。それをどこまで書き込むかという部分は、今後、国と詰めていく部分になると思っておりますが、いずれにしても、単に用地を取得して自治体が支援しますというスキームではだめで、10 年後も確実に鉄道が運営され、しかも、長い間にわたって永続的にこの鉄道が再構築されるという仕組みを国が認めて、これを認定していただくという作業が必要になりますので、それがわかるような文書をここに書き込んでいただかなければならないというようなことでございます。
- 座 長 ここまでのところで、総合連携計画のところ、今日は中部運輸局から課長がお越しになっておりますので、課長のお立場から、今回の計画案について、今の事務局からの御説明もありましたけれども、その辺も踏まえて、何か御意見なりあるいは御指摘を頂きたいと思えます。
- 中部運輸局 事務局の方から話があったように、法律そのものは 10 月 1 日に改正をされて、この再構築事業が認められることになったわけですが、細部の取り扱いについては、再構築事業について、実施計画についての詳しい書き込み、どういうふうに表示していくのか、あるいは福井鉄道が 10 年後心配なく生き残っていけるのかということについてどう書き込んでいくのかということについて、もうしばらく本省との調整、それともう一つは、この 25 日に福井鉄道の新役員体制がお決まりであるということで、この新役員体制での会社の方針と地域の皆さんの意見をどうミックスしてよりよいものにしていくのかということで、この再構築事業がどういうふうな書きぶりにな

るかというのは、まだちょっとぐらついているところがありますので、そのところを固めた上で、この4-4目標を達成するためのこれらの事業を実施するについても少し書き込みを深めていただきたいということです。基本的にはもちろん、福井鉄道がどう生き残っていくかということが非常に重要な案件でございますので、私どもとしても、今後もよりよい案が、連携計画あるいは再構築計画ができるように、中部運輸局あるいは鉄道局についても、これからもできる限りサポートさせていただきたいと思っております。

(2) 福井鉄道福武線鉄道事業再構築実施計画について

資料に基づき事務局より説明があり、主な質疑応答は以下のとおりである。

- 座長 連携計画には、鉄道事業再構築事業の中で福井鉄道の経営の改善、先ほどの取り組み等が取り入れられ、10年後には利用者数を200万人台に乗せようという目標を立てているわけですが、この件に関して何か補足的な説明がありますか。
- 福鉄顧問 先ほど事務局の方からいろいろ、簡単に御説明をいただきましたが、私の方から若干補足をさせていただきたいと思っております。まず、先ほど御説明がありました鉄道事業の再構築事業という形の大きな要件としては、事業構造の変更をどうするかということ、それから経営の改善をどういうふうにしていくかということ、この2点が非常に大きな課題になります。まず、事業構造の変更につきましては、御説明のあったとおり、我々の非常に重要な資産でございます鉄道用地を今回、行政の皆さんの御支援を得て取得していただいて、私どもの負担を軽減していただくという形で、大きく事業構造変更をしていくという形になってございます。これに基づいて、今後私どもがどういうふうに経営を改善していくかということでございます。今回、非常に大きな経営上の問題になって、行政の皆さんの御支援をいただくという形になりましたが、新しい経営については、こちらの1枚物のペーパーにございますとおり、基本的な考え方としては、基本理念として5点考えていきたいと思っております。鉄道事業でございますから、当然、安全性、安定性というのが我々にとっては一番大事なことでございますし、地域の皆さんの非常に大きな御支援をいただくということで、地域の皆さんにどうしても貢献をしていきたいという強い思いもございます。それから、鉄道にたくさん乗っていただかないといけないということでは、営業戦略を従来以上に強化していきたいということもございますし、最近の課題ということを考えますと、地球温暖化問題への貢献ということも、鉄道の利用促進の中では図っていかねばいけないかなと考えてございます。最後に、今回、経営上の問題が起きたわけですが、今後二度とこういったことを起こさないということのためには、企業としての健全性をどう確保していくかということが、我々にとっては経営を改善していく上で非常に大きな課題かなと考えてございます。こういった基本的な考え方で、今後経営改善を進めていきたいと考えてございますが、基本的には鉄道に乗っていただくことが重要です。乗っていただくために、我々はどうしたらいいかということ而努力していきたいと思っておりますが、今回、協議会の皆さん、いろいろな形で協議をしていただき御提案をいただきましたが、皆さんと連携をしながら、福井鉄道に乗る運動といいますか、マイルール運動といいますか、たくさん乗っていただくために我々としても努力をしていきたいと思っておりますし、皆さんにもぜひ鉄道に乗っていただきたいということで、協調して福井鉄道の経営を改善していくという形をとっていきたいと思っております。具体的には、このペーパーにあるとおり、現状は大体161万人でございますが、何とか2割増の200万人台に早く持っていききたいというふうに考えてございます。先ほど、連携計画の中で御説明あった項目というのが、今回皆さんで実施していただきましたアンケート

ト、この中で一番要望の多かった事項ではないかと考えてございます。この中のポイントとなる点について、若干御説明をさせていただきたいと思っております。まず、維持修繕とか設備更新というところで御要望がございました。これについては、今回、国の御支援をお願いしたいというふうにも考えてございますし、福井県さんあるいは沿線3市の御支援をいただいて、何とか安全な鉄道、安定して運行できる鉄道ということを目指していきたいと考えてございます。特に、今乗っていらっしゃる皆さんにとって一番感じられるのは、鉄道の揺れがひどいなというふうに皆さん感じていらっしゃると思います。この10年間非常に大きな投資を行っていくわけですが、これによって相当な改善がされるのではないかと、相当な改善を逆に凶っていかないといけないと考えてございます。それから、皆様の中から非常に御要望の多かった新駅についても、それぞれいろいろな地域で御要望がございましたが、用地の確保、予算の確保等々の順番ができ次第、私どもとしては順次早く取り組んで、早く皆様の御要望にお応えしていきたいというふうに考えてございます。それから、駅舎そのものも老朽化してございますし、トイレのない駅というところもございますので、こちらについても、皆様に気持ちよく御利用いただくということでは、順次私どもとしては取り組んでいきたいというふうに考えてございます。パーク・アンド・ライドについては、先ほど御意見もございましたが、私どもの方で今後、自社で整備できるものについては、鉄道用地の中で順次整備をしていきたいと考えてございますし、商業施設あるいは公共施設と連携をしながら、皆様とともにこういうふうな駐車場を確保するというようなことで、駅に来ていただくために我々としてはどうしたらいいかということをしつかり理解して、皆さんが利用しやすい鉄道ということを考えていきたいと考えております。もう1点、終電の繰り下げというのも非常に御要望が多かった項目でございまして、現在、福井方面から越前市、武生方面に向かう電車は10時台が最終でございまして、こちらを11時台。JRの最終便と合わせまして、11時台というのも考えていかななくてはならない課題なのかなと考えてございます。それから、運賃体系というのも非常に御要望が多かった項目でございました。今後、えちぜん鉄道との相互乗り入れ、あるいは先ほど事務局から御説明ありました、同じ田原町ー福井間で料金が違っているという状況もございまして。こういったことを考え合わせますと、一定の運賃の改定というのが当然必要になってくるかなと考えてございます。あとは、いろいろな議題がございましたが、それぞれ皆さんと協調しながら、行政の皆さんとの協議、あるいは沿線の支援団体の皆さんとの協議を通じて、実行できるものは、私どもとしては順次実行していきたいと考えてございます。

○座長

どうもありがとうございます。やはり今回の計画では、福井鉄道さん自身の経営改善努力が非常に大切なわけですけれども、今回の計画のポイントになるのは、トライアングルにあるような形で、公民連携型でどうやって支えていくかということが大事だと思います。今まで、第三セクター方式で、例えばえちぜん鉄道は経営の再生をして注目を浴びるような鉄道会社になったわけですけれども、今回、公民連携でどうやって民間鉄道会社を支えていくのかという、それをつくっていくことが非常に大切なことではないかなと思います。それがこの連携計画の中でどういうふうに入れられるのか、表現できるのか、その辺がやっぱり今までとは違う、民間事業者と行政と住民との強い関係をどうやって記載していくのか、その辺が大事になるのではないかなという気がしますけれども、今のお話を含めて、何か御意見がありましたら、出していきたいと思っております。

○委員

私ども福武線を利用させていただく市民の立場ですから、今回のこの計画そのものに対しては、私どもの要求、要望というんですか、ほぼ取り入れていただいている、大

変ありがたい計画だというふうに思っておりまして、ぜひこういうふうにみんなで力を合わせてやっていかなければいけないし、やっていただきたいなと思っています。その上で、それぞれの関係の皆さん方をお願いということですが、先ほど、国の方からお話がありましたし、事務局の方からもお話がありました。新しい法律の中での初めてのケースだということもお聞きいたしましたけれども、その中でも、まさに住民の立場から言えば、ぜひこの福武線を存続して、そして将来にわたってやってもらいたいという強い要望がありますが、民間の者から見ると、法律を扱う人は法律を優先して、住民感情とは遠いところで判断をするという場合もなきにしもあらずかなというふうに感じるときもありますので、その辺についてはぜひ国の方におかれましても、私ども住民の福武線に対する強い愛着というものを御理解いただく中でいろいろと御指導いただいて、ぜひ実現するようにお願いしたいと思いますし、それから、私も地方議員を20年やらせていただきましたけれども、特に今日は県の政策官の方、企画官の方がいらっしゃいますけれども、やっぱりこの問題というのは、この3市の足並みというのが非常に微妙な問題を含んでいると思うんです。これまでの経過を見ても、そんなことを感じるときもありましたし、この計画をきちっとやっていく中でも、やっぱりこの3市の足並みをいかにスムーズにそろえていくかというのが非常に大事なポイントになりますので、その辺につきましては、会長さんの御指導とあわせて、やっぱり私は福井県という立場の指導力が大変重要だなというふうに、これまでの経過を見て感じてまいりましたので、大変御苦労あると思いますけれども、そういった面で、足並みをそろえる面での県の御指導というのか、あわせて住民の立場からお願いしたいなと思っています。先ほど、福井鉄道からお話がありましたけれども、私どもの団体の中で会合をしたときにも、お願いしたいことの一つに、福井鉄道の社員の人は、あるいは幹部の人は、住民の前にもっと見える形で頑張ってもらいたい、こういうお話が出たわけですね。今までの社長さんがいらっしゃって大変恐縮ですけども、やっぱり今までの役員の皆さん方はひょっとしたら、みんな名古屋へ帰ってしまうんじゃないかなという、こんな思いがありまして、微妙な住民と幹部の皆さんとの間の溝と言うと悪いですけども、ちょっと距離感も感じるがあったと、みんな言っています。ですから、そういう意味では、これから選ばれるであろう福井鉄道の役員の皆さん、そして、この中では駅の有人化の問題とか、あるいは私どもの会合の中では、えちぜん鉄道の女性の常務員の皆さんがいいなという話も出たんですけども、福井鉄道の役員の皆さん、社員の皆さんが今までよりもっと住民によく見える形で頑張ってもらいたいなという声がありましたので、そのことも御紹介申し上げて、それらが一体となつてこそ、私はこういった整備計画が生まれていくんじゃないかなと思っていますし、そして、それをやっていただければ、私ども一生懸命乗る運動をもっともっと盛り上げていきたいなと思っていますので、よろしくお願ひします。

○委員 3市の足並みをそろえるということにつきまして、若干最近この3市の連携の会議が少し空白が出ておりますので、これから役所の方はどういうふうにお考えになっているのかわかりませんが、できるだけひとつ早目に、もう一度3市で話をしながら、どこで結びつける、どれを一番我々の力で強く要望するかということもしていくべきだと思います。事情はそれぞれあるかと思いますが、我々の方につきましても、上鯖江駅の大幅な改善ということに強い要望をしておりますが、依然としてこの計画書では上鯖江駅が挙げてありませんので、非常に心配をしております。もう一回お話を詰めながら、そういうことと3市の本当に大事なつながりを強くするために、近々意見交換をし、それぞれ3市がどういうふうになんか力をしていこうかということもで

できればと思いますので、どうかひとつ早目に3市のもう一度の調整なり相談をした方が、よりすばらしい計画ができるんじゃないかならうかと思います。

○委員 先ほども御質問あったと思いますが、利用者の人数ですね。161万人が200万人ということで、これは、今日発表されると、かなりひとり歩きする数字だと思うんですが、表現の問題で、先ほど御指摘あったように、200万人と言い切り、39万人の増という表現になっていますね。それから、こちらの資料の方での63ページでは200万人以上と言って、再構築事業では200万人台、こんな表現をしているんですね。だから、この辺はひとつ統一された方がいいんじゃないかと思います。それから、参考になるかどうかわかりませんが、サイクルトレインというのはこれまでサポート団体なんかでは、3市ともそういう意見があったと思うんですが、協議する中で非常に難しいというようなことで、顔を出さなかったんですね。今日電車で、今日だけじゃないですけども乗っていると、大型車両というのがありますけれども、あれだと、折り畳む自転車だったら十分乗るんじゃないかと思うんですね。そんなことで、大型車両がなくなるのであればやむを得ないと思いますけれども、現在、あの電車が走っていると、土日、祭日ぐらいだったら、折り畳み自転車ぐらいは乗ってもいいよというような感じになるんじゃないかと思うので、御検討いただければと思います。

○事務局 今の再構築事業につきましては、今後、引き続き再構築部会の方を断続的に開催させていただきまして、この内容を詰めてまいりたいと思います。この連携計画の記載につきましては、再構築部会の座長が、ここにおられます浅沼先生でございますので、ひとつ御一任をいただきまして、この表現方法についてはお任せをお願いしたいと思っております。また、国への送付等につきましては、また浅沼先生の方で御判断いただきまして、再度協議会が必要であれば開催するというような方向でさせていただきたいと思いますので、その辺については座長一任ということで、ひとつよろしくお願いできたらと思います。

○座長 今、事務局から御説明ありましたように、再構築実施計画の方は国と調整しながら記載していく必要がありますので、これからそういう調整をしていくことと、それに合わせて、実施計画の方も少し修正を加えていくということでございますので、座長一任という形で進めてよろしいでしょうか。御同意が得られれば、そのようにさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

どうもありがとうございます。必要があれば、個々に御相談等することがあるかもしれませんが、私と事務局と県と協議しながら進めさせていただいておりますので、よろしく申し上げます。以上をもちまして、すべての議事が終了いたしました。皆様、御協力ありがとうございました。なお、今日で本協議会、一つの区切りを迎えたということになりますけれども、今後も、福井鉄道福武線の活性化に向けた取り組みを行う上で再び協議を行うということもあるかもしれませんが、そのときにはよろしくお願ひしたいと思っておりますので、お忙しいかもしれませんが、よろしくお願ひします。

○事務局 それでは、ここで会長の福井市長よりお礼の挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○会長 ただいまは、慎重に当連携計画の骨子案につきまして御審議を賜りまして、誠にありがとうございました。事務局から説明、また座長からも説明がありましたように、本計画につきましては、この計画の中に位置づけます鉄道事業再構築事業が国に認定となれば、最初のケースとなるだけに、申請に至るまでには、まだ国の方ともいろいろと詰めなければならないことが多々あるようです。福武線の再生、活性化の方向性、

あるいは再生のために行う事業などは、ほぼ今日の御審議をいただきまして固まったものというふうに思われますが、当協議会といたしましては、座長からもお話がありましたように、一つの区切りができたのではないかと考えております。今ほどもいろいろな御意見の中に、三者が連携をしてやっていかなければならないお話があり、えちぜん鉄道ができるときに第三セクターというような話がございましたけれども、第三セクターといいますのは、官と民とが共同して行うということで第三セクターと言われておりました。しかしながら、その官と住民、あるいは民と住民という形でいろいろな事業を展開していくようなものも出てまいりました。そういう中で、えちぜん鉄道は官と住民と、そして民間があわさった、ジョイントセクター方式でいわゆる会社が成り立っております。今回の福武線、福鉄の場合には、福鉄という民間会社と、そして3市、県という官と、そしてサポート団体の住民の方とがそれぞれ同じ、そこへ出資を一緒にしているというわけではないんですが、この三者がともに連携してやるという、またえちぜん鉄道とは違うジョイントセクターを目指しながらやっていく必要があるのではないかとこのように思っておりますので、今後とも皆様の御協力をひとつよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

以上

第4回 福井鉄道福武線活性化連携協議会 出席者名簿

日時 平成20年11月11日(火)13:00～14:30

場所 ユアーズホテルフクイ5F

役員	種別	所 属	役 職	氏 名	出欠	代理出席者
座長	第3号	福井県立大学経済学部	准教授	浅沼 美忠	○	
	第3号	福井県警察本部交通部	部長	前田 達男	○	白崎交通規制課長
監事	第3号	福井県総合政策部	企画幹	笹井 博見	○	
監事	第2号	福井県土木部	技幹	近藤 幸次	○	
	第2号	福井鉄道株式会社	代表取締役社長	山内 和久	○	
	第3号	福井市福井鉄道福武線サポート団体協議会	理事	宮本 清司	○	
	第3号	福井鉄道福武線利用促進鯖江市民会議	会長	斉藤 啓介	○	内田副会長
	第3号	越前市・福武線を応援する連絡協議会	会長	大柳 登	○	伊藤事務局長
会長	第1号	福井市	市長	東村 新一	○	
副会長	第1号	鯖江市	市長	牧野 百男	○	藤山産業部長
副会長	第1号	越前市	市長	奈良 俊幸	○	國定企画部理事
オブザーバー		国土交通省中部運輸局鉄道部	部長	渡邊 正文	○	横山計画課長

〔福井鉄道株式会社〕
村田治夫顧問

〔総合連携計画作成〕
福井市
鯖江市
越前市

〔事務局〕
福井市 畠山都市戦略部次長
同 脇本都市戦略部副理事
同 向坂交通政策室副課長
同 松井交通政策室主任